

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 史学専攻 修士課程《社会人》	2026年度 秋季
専門に関わる 小論文		

《日本史分野》

《解答又は解答例》

- 1 論述形式の設題であるため、具体的な解答を示すことはしない。解答にあたっては、古墳時代全体の動向の中で群集墳が登場した背景を説明した上で、その具体的な分布、構造、副葬品、地域的特色などをまとめ、どのような展開を遂げて消滅していくのか明快に述べ、その意義について適切にまとめることを期待する。
- 2 論述形式の設題であるため、具体的な解答を示すことはできません。解答にあたっては、日本令の母法たる唐令に規定された、皇帝と三省との関係と比較した上で、天皇が太政官を統制したのか、あるいは逆に太政官に結集した豪族たちが天皇を統制して天皇の自由意志を妨げる制度だったのかなどを中心に論じることが期待される。
- 3 論述形式の設題であるため、具体的な解答を示すことはできません。解答にあたっては、①日本中世の戦争に関する基礎的な理解を示すこと、②課題文に対する正確な理解を示すこと、③自らの考えを適切に示すこと、の3点を意識して論述してください。
- 4 論述形式の設題であるため、具体的な解答を示すことはできません。解答にあたっては、①日本近世の国際関係に関する基礎的な理解を示すこと、②課題文に対する正確な理解を示すこと、③自らの考えを適切に示すこと、の3点を意識して論述してください。
- 5 論述形式の設題であるため、具体的な解答を示すことはしない。解答にあたっては、団体の設立時期、中心的な人物、歴史的に果たした役割などについて、論理的に説明することを求める。

《出題の意図》

- 1 日本考古学上の重要事項に関する基本的な理解があるかどうか問うものである。
- 2 日本史学（日本古代史）の重要事項に関する基本的な理解があるかどうか問うものである。
- 3 日本史学（日本中世史）の重要事項に関する基本的な理解があるかどうか問うものである。
- 4 日本史学（日本近世史）の重要事項に関する基本的な理解があるかどうか問うものである。
- 5 日本史学（日本近代史）の重要事項に関する基本的な理解があるかどうか問うものである。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 史学専攻 修士課程《社会人》	2022年度 秋季
専門に関わる 小論文		

《東洋史分野》

1

《解答又は解答例》

陳寅恪は『唐代政治史述論稿』において、まず唐代の統治階級の変化について以下のように論じている。唐朝は西魏以来の関隴集団に発する李氏によって建国され、唐初の統治階級は関隴集団が中心となっていたが、則天武後の時代になると、科挙出身の官僚が重用され、府兵制の解体も進められ、関隴集団は力を失っていった。玄宗の時代になると、科挙出身官僚でなければ宰相になることができなくなり、辺境の防衛は異民族出身の将軍が担うことが多くなり、さらに宦官が朝政に大きな影響力を持つようになり、関隴集団は崩壊した。唐代後半には、科挙の重視により、科挙出身の新興階級と学問的伝統を有する山東の士族が力を有するようになり、これが牛党と李党を形成した。また、河北の藩鎮のように地方には自立的軍事勢力が形成されるようになるが、彼らは概ね長安を中心とする唐朝とは文化や種族を異にする存在でもあった。あわせて、突厥、ウイグル、チベット、朝鮮といった周辺の諸民族の動向とそれが唐の内政・外政に与えた影響についても論じている。

《出題の意図》

著名な歴史学者である陳寅恪の歴史研究について、その代表的な著作への理解を通して歴史研究方法への理解の深度、および中国史の基本的な知見の有無を確認する。

2

《解答又は解答例》

この図面は隋唐洛陽都城のものである。当該洛陽城は、隋の第二代皇帝煬帝によって新たに造営されたもので、隋長安城を手掛けた宇文愷が主導したものである。しかしながら、宮城を中央に配する長安城に対し、洛陽城では宮城が西北の端に設けられるという差異がある。さらに洛陽城では都城の中央を洛水という大河が東西に貫通している。設計段階からこのような規格を有する都城は前代未聞である。都城の中軸線は宮城の中央軸を南北に延長したところにあると認識されてきたが、昨今では、東城の東門より東向し上東門を通過する大道を中軸とする見方も提示されている。また、北外郭城と東外郭城とが東西・南北の方向軸より大きくずれている。北外郭城については邙山から延びる山麓部の地形に影響されていると考えることができるが、東外郭城については明確な要因は未だ明確になっていない。条坊の数についても長安と大きな差異はないが、一つ一つの形状については長安が東西に長い長方形であるのに対し、その多くが正方形である点が特徴である。このほか、隋唐長安城では西北部にある漢より隋まで使われてきた旧城を放棄するのではなくこれを包含して禁苑として利用することが認識されているが、洛陽城でもその西側に東周王城が位置しており、やはり離宮や禁苑として活用したことが認識される。この図面は西側にその区域を明記していないが、東周王城を含

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 史学専攻 修士課程《社会人》	2022年度 秋季
専門に関わる 小論文		

め宜陽県界までも延びる広大な区域が禁苑区域となっており、その区域まで視野にいれるならば、蝶が羽を広げたような形状になり、西に偏っているように思われる宮城の配置は広域洛陽城の中央に位置することになる。隋唐長安城との比較に止まらず、南朝建康城からの影響の有無も含め、中国都城史のなかで当該都城をどのように位置づけるべきか、研究課題の多い都城である。

《出題の意図》

歴史上極めて知名度の高い隋唐洛陽城について、その特徴の叙述方法を通して研究能力の深度をはかり、物質資料研究に求められる素養の有無を確認する。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 史学専攻 修士課程《社会人》	2019年度 春季
専門に関わる 小論文		

《西洋史分野》

《解答又は解答例》

古代ローマの共和政は、成年男性市民の全体集会である民会を国家運営の意思決定機関としており、形式的な側面において古代アテネの民主政と共通点を有する。けれども、一人一票の原則に基づき参加者の各人が同等の一票を投じたアテネの民会と異なり、ケントゥリア民会と称されるローマの民会は、参加者をその保有財産額に基づきグループ分けし、一グループが一票を投ずる方式を採用していた。そして各グループを構成する人員数は貧困層になるほど増加するように設計されており、投開票の順番でも富裕層の属するグループが優先された。ローマの場合、得票が全グループの過半数に達した時点で投開票も終了するのがきまりであったから、各参加者がもつ一票の重みには著しい差異が存在したことになる。しかもローマ共和政においては、国家運営の実務を担う公職者、なかでもその中枢となる執政官や法務官といった公職者がケントゥリア民会における投票により選出された。これは役人の大半を抽選で選出していたアテネと対照的である。一方、重大事案に関する裁判は、時代が下るとともに同民会から陪審法廷へと移行するが、判決を下す権限を有する陪審員は、公職経験者たる元老院議員やローマの最富裕層を構成する騎士身分の人々から法務官が選出した。陪審員を30歳以上の成年男性市民から抽選で選出していたアテネとの違いは明らかである。従って、制度の内実に鑑みれば、古代ローマの共和政は寡頭的な統治体制を特徴とする国家であったといえよう。

《出題の意図》

西洋古代史の重要事項に関する基本的な知識を問うものである